

学校概要

| | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|----------------|
| 創立 36 周年 | 学校長 吉原 勝 | 副校長 西郷 建彦 | 学期 2 学期制 | 幼児・児童・生徒数 84 人 |
| 学級数 幼稚部: | 小学部: 5 | 中学部: 2 | 高等部本科: 3 | 分教室: 1 |

学校教育目標

一人ひとりが生き生きと楽しく生活できる力を高めます。
 ・一人ひとりの能力や可能性を伸ばします。【知】
 ・健康で安全に楽しさあふれる学校生活を送れるようにします。【徳】【体】
 ・社会参加を推進し、充実した地域生活を送れるようにします。【公】【関】

学校の特徴

- 卒業後の社会自立をめざしたキャリア教育を小中高等部段階のキャリア発達に応じて行っている。
- 児童生徒の心の成長を図り、一人ひとりの才能を伸ばし、自己実現できるよう指導に取り組んでいる。
- 居住地域での生活を豊かにするために副学籍交流やセンター的機能の充実を図っている。
- 保護者、関係諸機関(医療・福祉・訓練等の地域諸機関)との連携と児童生徒の健康管理を図り、学習や社会参加と地域生活がより充実するように支援を行っている。
- 横浜医療福祉センター港南に分教室があり、入所している児童生徒に本校に準じた学習を行っている。
- 肢体不自由特別支援学校の再編整備に伴い学習環境の充実、および中度・軽度の児童生徒に応じた教育課程の再編を行う必要がある。

学校経営中期取組目標

- 1 児童生徒一人ひとりの生命と人権を尊重し、社会の中で支援を受けながら「生きる力」を育むきめ細かい指導を行う。
- 2 児童生徒一人ひとりの実態に即した教育課程を編成する。
- 3 特別支援学校としての専門性を活かして積極的に小中学校への学習支援の助言にかかわり、センター的機能を高める。
- 4 交流及び共同学習を充実させ、「ともに学び、ともに生きる」共生社会の形成を目指す。
- 5 保護者や地域、関係機関との連携、特別支援教育の理解・啓発のための発信を通し、地域に開かれ、地域に貢献することができる学校づくりを推進する。

12年間で育てる子ども像

- 一人ひとりが地域社会で自立できる子
- 自分の思いを表現できる子
- いろいろなことにチャレンジできる子

自校の具体的な取組

- ①キャリアステージに応じたキャリア教育を大切に、卒業後の社会自立を図るために児童生徒の良いところを伸ばすための授業研究をすすめる。そのためにも、児童生徒の状態を様々な方向からアセスメントして指導を行う。
- ②居住地での地域活動を促進するために、就学前から学齢、卒業後までの切れ目のない地域連携を強化する。
- ③文化・芸術活動を通して感性を豊かに、心の安定を図る。

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|-----------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>確かな学力</p> <p>担当 学習指導部</p> | <p>○個別の教育支援計画を充実させ、一人ひとりの良いところを伸ばすための教育を進める。</p> | <p>○一人ひとりの障害の状態を的確に把握し、子どもの目線に立った個別の教育支援計画を作成し、保護者や関係諸機関と連携してきめ細かな指導に努める。</p> <p>○子ども一人ひとりの実態に即した教育課程の編成(知的障害等)を図る。</p> |
| <p>豊かな心</p> <p>担当 交流人権部</p> | <p>○同年代や地域の子ともたちとのかかわりを大切にした交流を推進する。</p> <p>○芸術を通じた豊かな感性を育成する。</p> <p>○様々な国の人との交流を推進する。</p> | <p>○「ともに学び、ともに生きる」を合い言葉に、周りの人に対する信頼の気持ちを育てる。</p> <p>○中村小学校をはじめ平楽中学校や副学籍校との交流及び共同学習の充実を図る。</p> <p>○オーケストラや絵画鑑賞などを通して感性を育て、心の安定を図る。</p> <p>○国際理解教室の授業を通して、色々な国の文化や伝統に触れる。</p> |
| <p>健やかな体</p> <p>担当 自立活動部</p> | <p>○健康教育や食育の充実を図り、健やかな体づくりへの関心を高める。</p> | <p>○家庭や地域、関係機関との連携の下、子どもが自らの「食べること」や「呼吸とからだ」に興味関心を持ち、健康や食生活に関わる力を引き出せるように支援する。</p> <p>○食事の重要性、食事の喜びや楽しさを理解し、食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。</p> |
| <p>センター的機能の取組</p> <p>担当 支援部</p> | <p>○地域の配慮の必要な子どもの就学前からの連携と、小中学校や関係機関との相談や支援についての連携を充実する。</p> | <p>○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学に関する見学や相談活動に取り組み、保護者の不安や今後のライフスタイルに向けてのアドバイスをする。また、地域の小中学校の特別な支援を必要とする子どもへの対応について、小中学校の特別支援教育コーディネーターや担任、関係機関との連携を深め、様々なケースに対応できるように努める。</p> |
| <p>安全管理</p> <p>担当 防災安全部・医療的ケア委員会</p> | <p>○安全に学校で学習できるような環境、不審者対応、災害発生時の医療的ケアの必要な児童生徒への対応を迅速に進める。</p> | <p>○様々な非常時を想定した避難訓練、不審者対応訓練への取組、そして教職員の防災・防犯研修やAED研修、緊急シミュレーションを積み重ねることで意識を高め、迅速な対応ができるようにする。</p> <p>○医療的ケアの取組、ヒヤリハットの蓄積・分析・共通理解を図り、その対策に講じる。</p> |
| <p>研究</p> <p>担当 研究研修部</p> | <p>○児童生徒の良いところを伸ばす(才能)ための指導について重点研究を充実する。</p> | <p>○ICT活用の指導についての研究を充実する。</p> <p>○NMBPを継続しながら、認知面の指導の充実を図り、運動、知識の両面からの指導の研究を行う。</p> <p>○大学など関係機関との共同研究を積極的に進めていく。</p> |
| <p>地域連携</p> <p>担当 支援部</p> | <p>○社会自立を目的に地域への支援、情報発信を積極的に行い、学校理解に取り組む。</p> | <p>○ボランティアの登録や養成を積極的にすすめる、障害や特別支援学校についての良き理解者・支援者を育成する。</p> <p>○レインボーフェスタを中心とした地域行事、学校評議員会、学校HPや掲示板などを使って情報を発信し、学校の教育活動の理解者がより増え、地域との繋がりをさらに深める。</p> |
| <p>人材育成・組織運営</p> <p>担当 教務部</p> | <p>○教職員一人ひとりの力を発揮できる組織を構築する。</p> | <p>○教職員一人ひとりが自覚と責任を持って組織運営に取り組む。</p> <p>○授業力のアップやメンター的機能の充実、人権教育の推進を図る。</p> <p>○教職員間のコミュニケーションを密にし、専門性の共有化、共感と信頼し合える人間関係づくりに努める。</p> |
| <p>いじめへの対応</p> <p>担当 交流人権部・人権推進委員会</p> | <p>○児童生徒一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また、全ての児童生徒の「教育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。</p> | <p>○児童生徒が安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり、集団づくりを進める。</p> <p>○児童生徒を大切にする意識を共有し、人権教育に関する研修や一人ひとりの特性を捉え適切な支援を行うための研修を行う。</p> |